

令和2年度第1回

豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会議事概要

日 時：令和2年8月5日（水）午後2時～4時18分

場 所：豊能町役場2階 大会議室

出席者：委員10名、事務局5名

傍聴者：6名

1. 開会

午後2時に会長が開会し、過半数の委員出席による開催を確認した。

2. 委員及び出席者紹介

事務局より委員及び出席者の紹介があった。

3. 【報告】豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン令和元年度事業実績等について（「地域再生計画」制度活用による計画の実施）

（1）以下の事項について事務局より説明があった。

- ①豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- ②地域ぐるみの定住促進について

（2）主な質疑、意見

〔委員〕こんなことを続けていて目標を達成するのか。結果はどんどん下がっている。これは駄目だと思う事業はやめて、もっと効いてくることをしてほしい。いくらチェックの部分をやっても、次のアクションをする住民が全然理解していないと進まない。今までのようなことを続けて、事務局と一部の人がやっていて目標を達成できるのだろうか。もっと住民に説明しないといけないと思う。

〔委員〕目標として人口減に歯止めをかけたいと掲げているが、非常に難しい問題。そう簡単に効果のあるプランもないと思うので、あまり結論を急いでも仕方がないのではないかな。町をなんとかしたいと思っている人たちは、割と若い世代に多く、そういう人たちはアイデアを持っているし、実行力もあるし、既にいろんな事業を立ち上げてやっている。不特定多数の住民を集めて説明会をするのではなく、意欲のある人たちが色々な事業を立ち上げることをサポートしたり、求めたりすることをやっていった方がいいのではないかな。

〔委員〕まちづくりで上手くいかないのは、一部の人がどんどん自分たちでやりたいこと見つけて楽しそうにすると、必ず残された人たちは足を引っ張るということ。また、一つのこと

を皆で一緒にやろうとすると、だいたい失敗する。そうではなくて、個々で好きなことをやって、ちょっとずつ接点があればいいぐらいのまちづくりがバランス良かった。

(事務局) 新しい総合まちづくり計画を立てる中で、継続していった方がいい事業、やめた方がいい事業といった見極めをきっちりやっていきたい。町はこんなことを考えているのだということは全体に広げ、担い手として手を挙げてくれる人がいれば、その人たちで出来ることを取りまとめていく。それが、行政がこれから担っていくべきところではないかと思っている。

(3) 以下の事項について事務局（農林商工課）より説明があった。

①農×観光戦略について

(4) 主な質疑、意見

[委員] 特産品を開発するというのも大事だが、地域経済の循環ということを考えた場合、それを販売して地域にお金が落ちること。売り上げは好調なのか。

(事務局) 志野の里を通して販売した分については一定わかるが、それ以外の個人販売の分は把握出来ていない。

[委員] 広島県のこんにやくが名産の町で、地元の高校生と一緒にオオサンショウウオ形のこんにやくを作ったら、見た目のグロテスク感もあり話題性を呼んでかなり売れている。そんなアイデア商品があればと思う。

[委員] 道の駅構想は白紙に戻すことになったが、農×観光は大事なことからやりますとなっている。これは非常に矛盾している。

(事務局) 道の駅構想は白紙になったが、基本的には農業の生産力向上と、観光も絡めた農×観光なので、点々となっている観光拠点を少しずつ繋ぐ形で事業を進めていく。

[委員] こんにやくの話は結局マーケティング。こういう農産物がありますだけではなく、世代にあった付加価値の付け方かなと思う。食べ物のことに関しての入り口は、大勢の女性を買いたくなるものをどうやって作るか。そういう意見を、町内の高校生、子どもたちに聞いてみたりしては。

4. 【報告】豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略数値目標・KPI達成状況等について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

- ①目標値に対する達成度
- ②目標値を達成した項目
- ③基準値より下降（悪化）した項目
- ④数値に変化がなかった項目
- ⑤総括と今後の方針

(2) 主な質疑、意見

[委員] つどいの場を実際にやっていくことを具体的に考えているのか。

(事務局) 現状として作るのは難しい。場所の確保が問題になって作ることができなかった。

[委員] 参考までだが、2016年から毎月、吉川保育所で、昨年度からはひかり幼稚園でも哲学教室を実施している。年1度だけだが大人の哲学教室も行っている。そういった場もつどいの場として活用していただけたら。

5. 【報告】豊能町総合まちづくり計画と人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略の一体化について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

- ①計画の役割
- ②計画の一体化
- ③総合戦略の評価・検証（PDCA）
- ④重点施策（アクションプラン）

(2) 主な質疑、意見

[会長] KPIを求めることも重要だが、たくさん挙げるのではなく検証にかかる事務の効率化も必要。今の数自体は正直多すぎる。もっと重点的な指標に絞って、事務に注力していく方が良い。

6. その他

[委員] ボランティア活動を通じて色々しているが、ここ1・2年で随分状況が変わってきた。町が色々な人、あるいは団体をサポートして活動し始めたことの影響が出てきていると実感している。こういうことを今後も地道に継続していくことが大事。

[会長] 色々なことをやっているのは明るいメッセージ。ゆるい繋がりの中で他の人がこうやっているということを知って気づくことで取り組みが変わったりする。特効薬として効くものではない。大病を治すとすると、薬を飲むことも大事だが体質自体も変えていく食事療法のようなものも極めて大事。すぐに効果が出なくても、少しずつ住民の中に広がっていくことが大事ではないか。

[委員] 就農支援塾に4期生として通っている。志野の里に野菜を出荷するが、週4日しか開店していない。道の駅構想を白紙撤回するなら、例えば東に1店、西に1店の直売所を設けても十分対応出来るのではないか。

[委員] 総合まちづくり計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略の一体化について。まち・ひと・

しごと創生総合戦略は20年30年40年後どのようにその地域が変貌していくのか考えたうえで施策をなさいということだったと思う。これからインフラとか交通、教育、医療、介護、行政サービス、公共施設の問題が山積してくるだろう。10年後20年後30年後のシミュレーションを早く作らなければいけない。その時になって慌てふためいてもなかなか難しい。ぜひそのあたりのシミュレーションを。

〔委員〕観光資源を求めてくる人たちは旧村に来る。地域にはキャパシティーがあるが、そんなことは関係なくどんどん人が来てオーバーフローする。そうなると地域の間人から苦情が出る。人を呼ぶだけの施策だけで、設備面の施策がない。人を増やそうとするならインフラの整備をしていく必要がある。このままだと、いつかはクレームが来る。そうなったとき一番怖いのは地域の人が受け入れなくなること。宣伝して来てもらっても、受け入れる人がそういう立場なら、二度と来なくなる。やはり地域の人々の理解が必要。だから町が説明して、地域に理解を求めるようにしてほしい。

7. 閉会

(1) 午後4時18分に閉会した。